

# 社会教育クロースアップ

## 地域における家庭教育支援基盤構築事業 家庭教育支援研究協議会

令和4年10月12日（水）、すべての保護者が安心して家庭教育を行うことができる体制づくりに向けて、地域人材を中心としたチームで家庭教育を支援する家庭教育支援チーム設置の重要性や実際の実践について学び、十勝管内における家庭教育支援の充実を図ることを目的として、本研究協議会を実施しました。

### パネルディスカッションの内容

「事例から学ぶ家庭教育支援チームの活動」をテーマに、子育てサロンおとぶけ通り くるみ代表の中村友子氏、音更町保健福祉部健康推進課おやこ保健係長の**大野裕子氏**を講師として実施しました。子育てサロンおとぶけ通り くるみは**地域人材が主体的に家庭教育支援に関わるとともに、音更町の保健師と連携して活動**をしています。なお、令和4年4月に文部科学省が設置を推進している家庭教育支援チームに登録されました。

【パネルディスカッションの内容】

内容	中村氏	大野氏
保護者の困り感、子育ての孤立の実態	・道外出身者、転勤族、実家が遠方にあるなど、周りに子育てをサポートしてくれる人がいない状況の利用者が多い。また、集団に入るのが苦手なため、孤立してしまう保護者がいる。	・令和3年度の乳幼児健診で実施した子育てアンケートによると、子どもに対して育てにくさを感じる保護者が20.7%いた。
困り感のある保護者との関わり方、保健師と子育てサロンの連携	・保護者自身が子育ての課題を解決できるように、子育て力の底上げに取り組んでいる。自分の言葉で不安や悩みを話すことができるようになると、自力で問題解決ができるようになってくる。そのために、保護者の話を丁寧に聞くことを意識している。 ・利用者同士、利用者地域をつなぎ、自身の経験をもとに、互いに子育ての問題解決ができる環境づくりを心がけている。	・支援というと、手を差し伸べることに注目されるが、親としての自覚を芽生えさせるために、保健師と保護者が一緒に子育てについて考える機会も提供している。 ・子育てサロンは、産後に育児の経験者からアドバイスをもらい、認めてもらう経験ができる貴重な場であるため、産前に行うパパママ教室や乳幼児健診時に、保健師から子育てサロンを紹介している。

### 家庭教育支援の充実に向けて

パネルディスカッションから、家庭教育支援の充実に向けた視点として、

- ①保護者への教育の視点（保護者自身が子育ての課題を解決することができるようになるために必要な力を高める教育の機会を提供する）
- ②保護者への支援の視点（困り感を抱える保護者に丁寧に寄り添う）
- ③子育てを支え合う環境づくりの視点（家庭、学校、地域、企業、行政等が連携し、社会全体で家庭教育を支援する環境を醸成する）

この3点が挙げられました。子育てサロンおとぶけ通り くるみでは、当初は利用者だった方が、保健師による丁寧な支援、そして中村氏との関わりを通じて、次は誰かのために役立ちたいと思い、現在ではボランティアとして活動を支えるなど、家庭教育支援の輪が広がっています。



【発行・お問合せ先】

北海道教育庁十勝教育局

北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班（田尾・山崎）  
 住所：〒080-8588 帯広市東3条南3丁目  
 電話：(0155) 26-9243（直通） 平日 8:45～17:30  
 E-mail：yamazaki.kouji@pref.hokkaido.lg.jp